

コロナ禍における子ども会活動事例紹介

①子ども会名 知多市 佐布里校区子ども会	②タイトル ドッチビーレクリエーション
③参加人数 低学年(25名)中学年(22名) 高学年(15名) スタッフ各10名	④予算 2,000円
⑤活動内容・工夫した点・感想等 <ul style="list-style-type: none">●知多市全体でのドッチビー中央大会がコロナ禍で中止になり、他の校区とも交流の機会がなくなり、校区内だけでもコロナ禍でもやり続けていけないか、役員で試行錯誤し感染対策を徹底したドッチビーレクリエーションとして開催。●コロナ禍を考え、一日かけ午前→低学年、午後①→中学年、午後②→高学年と時間を分けて3部制にした。 スタッフも3部制にし、なるべく1部ずつ小人数で行った。 <ul style="list-style-type: none">●体育館の換気、入り口での検温、消毒を徹底し、熱中症の恐れも考えこまめに水分補給や休憩時間も多めに設けた。●入口も小さなドアの玄関は使わず、大きな扉が開く方を入口、出口にした。●1年生は初めてのドッチビーだったのでルールから説明し、最後には楽しくゲーム出来ました。●コロナ禍でも子供は日々成長しているので、極力中止にせず感染対策を徹底し、with/after コロナ禍でも子供達が喜ぶ行事を行っていかねばいけないと思った。	

